

平成29年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

目指す学校像	地域や産業を支え、新しい時代を切り拓く、創造性豊かな実践的技術者を育成する
--------	---------------------------------------

重点目標	1 専門教育の深化と学力の向上を図り、第一志望の進路を実現する力を育てる 2 自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる 3 地域等との連携を深めるとともに、積極的な情報公開に取り組む
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	14名

学 校 自 己 評 価							
年度評価(1月26日現在)							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ・生徒は穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・継続的な基礎学力の定着を図る授業の実践より、成績不振者は減少している。 【課題】 ・専門教育を深化させ生徒の学習意欲を高めるとともに確かな職業観の育成が求められる。 ・国公立大学への進学をはじめとする生徒の高い志を育成し維持させる必要がある。 ・学科の垣根を越えた取組をより多く実施し、生徒間で刺激し合い主体的に学ぶ機会を増やす必要がある。	○学力向上を目指した授業の工夫 ○工業科の実習と課題研究の授業改善 ○進路実現100%に向けた進路指導	①学力の向上を目指した授業の工夫 ②指定校事業などを活用した実習や課題研究の改善 ③各学年における段階的進路指導の実施	①生徒アンケートによる授業満足度 ②成績優良者の人数、成績不振者の人数 ③国や県の事業などを活用した教育活動の実施状況 ④生徒の進路意識の向上と進路実現に向けての取組状況	○様々な取り組みを通して、生徒の自主性・主体性の効果が出つつある。 ①生徒の授業アンケートでは、約70%の生徒が「わかりやすい」と回答しており、概ね達成している状況である。 ②成績優良者は、全体の8.3%であった。成績不振者は、昨年より微増した。 ③文部科学省「地域産業中核の人材養成事業」をはじめ、県指定の「未来を拓く学びプロジェクト」他8つの事業指定を実施し、専門科目の深化が図られた。 また、今年2年目を迎える「五科合同課題研究発表会」を計画し、他学科の学習内容の理解を図った。 ④校内ガイダンスや説明会、個別指導を通して情報共有ができた。学年・学科との連携による面接指導等により、今年も第1希望の企業からの内定率が約90%になった。 特に機械科では、93.6%の高水準となった。	B	①ICTを活用した視覚・聴覚に訴えたわかりやすい授業を目指す教員が増えている。今後、ICTの活用方法をはじめとする授業研究に取り組むなど、生徒の授業アンケートにおいて80%以上の生徒から「わかりやすい」との回答が得られるよう努める。 ②全体的な学力向上を図るため、進路実現等に目を向けた、より高い目標が設定できるよう生徒を支援する。 ③生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、「課題研究」等の充実に努める。 ④県の事業を積極的に活用するとともに、地域や企業等との連携の推進など、工業高校の特色を生かした教育を推進する。
2	【現状】 ・挨拶、身だしなみ、清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・部活動や生徒会活動などが主体的に行われている。 【課題】 ・生徒一人一人が高校生活に充実感を持ち、一層の基本的な生活習慣の確立と定着を図るため、多面的で組織的な指導を行うことが必要である。 ・部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援し、学校全体の一体感を醸成し自校への誇りを自覚させる。	○生徒の心身の成長と規範意識の向上 ○部活動・生徒会活動のさらなる活性化	①日常の組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等の実施 ②部活動や生徒会活動、地域交流・ボランティアをとおして、生徒の多様な経験を支援し小さな成功を積み重ねさせチャレンジ精神を醸成する。 ③志を維持させ確かな職業意識を確立するための講演や特別講義の実施	①生徒の挨拶、身だしなみ、遅刻の状況 ②学校行事・部活動・生徒会活動の取組状況 ③外部講師等の活用状況	○継続的な生徒指導の効果が出ている。 ①多くの教員と生徒会の協力のもと、あいさつ運動や声かけ運動が行われた。生徒のあいさつや身だしなみは大変良好であり、来訪者の方からも褒めの言葉をいただいている。 ②学校行事への保護者の参加も多く、生徒も積極的に活動に取り組んでいる。工業祭(文化祭)には、悪天候にもかかわらず、3千5百名を超える来場者があった。 部活動では、夏の高校野球で県ベスト8や自転車競技部のインターハイ第3位、陸上競技部の関東大会出場等の成果があった。 ③ウォークマン開発者高篠静雄氏による講演をはじめ、高度熟練技能者や社会の第一線で活躍している技術者を講師として招へいし、旋盤、建築大工、とび、化学分析等の特別講義を実施した。	A	①あいさつ運動や声かけ運動を継続し、心のこもったあいさつができるよう取り組む。また、学校全体で生徒を見守る体制を更に強化するとともに、遅刻者数の減少に結びつける。 ②部活動や生徒会活動は、生徒の心身の成長と生徒同士の絆を深められるとともに、学校や地域の活力になる。そのためにも、生徒がのびのびと活動できるよう、更に安全・安心な環境の提供に努める。 ③先端技術や高度技術などの「ホンモノ」に触れる機会を増やすことにより生徒の可能性やより高い目標を持たせるため、各分野の専門家や技術者など外部講師を積極的に招へいする。
3	【現状】 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信するとともに、日頃の学習活動を活かした地域貢献に取り組んでいる。 【課題】 ・今後も、地域・保護者の理解と協力を得ながら教育活動に取り組むとともに、積極的な情報発信を行い開かれた学校づくりを推進する。	○ホームページ等による積極的な情報発信 ○地域・保護者との連携による教育活動	①ホームページや広報紙等を活用した日々の教育活動の発信 ②保護者のニーズに沿ったきめ細やかな情報提供 ③地域と連携した事業の実施	①ホームページ更新状況 ②保護者アンケートによる学校への満足度 ③地域連携事業の取組状況	○積極的な情報発信の効果がでてきている。 ①学校ホームページを毎日更新するよう情報発信に努めた。 ②各学年とも定期的に学年通信を発行しており、保護者アンケートでは、86%の保護者から「伝わっている」との回答があった。 ③本校と丸庄百貨店川越店とのコラボ企画「まるひろ川越店“こども工作体験教室”」や、川越産業フェスタ等、地域や企業等との連携は、生徒の「主体的・対話的で深い学び」となった。また、地域の学校理解につながった。	A	①学校ホームページの中には、更新されていないページが見受けられるため、学校ホームページの改善に取り組む。 ②「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、積極的な地域連携に取り組むなど、工業高校の特色を生かした教育に取り組む。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 平成30年2月9日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・「五科合同課題研究発表会」が、今回も見ることが出来て大変良かった。生徒の感想からも「自分の学科以外の発表を見ることが出来て良かった。いい機会ですごくよかったです。」と聞き、他学科を知る生徒同士の交流がある、有意義な取組になっていた。 ・ICTを活用した授業が増え、授業がわかりやすいと回答した生徒が多いということは、授業研究を良くなされていることだと思います。さらに研究を重ねて学力向上に繋げてほしい。 ・3ヶ年皆勤が50名を超えている事は、すばらしいと思います。	
・生徒会の生徒があいさつ運動に参加し、一緒に声かけをするようになって3年目を迎え、登校時だけでなく普段の時も生徒から元気のよいあいさつがあり、非常に気持ち良く学校に入れた。 ・工業祭は、悪天候にもかかわらず来場者が多く活気がある。	
・学校ホームページを見ることによって、学校の様子がわかる。部活動の活躍や校長のブログはよく見る。 ・事務室からの保護者あて通知を配布した際は、一斉配信メールで連絡をするなど対応してくれて良かった。	